

「もう歩かなくてもいいんだ」・・・100Km ウォークに参加して

1887 大田米男 (60 歳) 小倉南区 (株)ダイフク 記録 20 時間 34 分 初参加
10 月 8 日 (土) 正午過ぎに行橋正八幡神社をスタートして、10 月 9 日 (日) の 9 : 05 に
別府 的が浜公園のゴールゲートをくぐった時の正直な感想である。

参加のきっかけは とある小倉の Snackbar でたまたま隣に座っていた人の会話のなかに

100Km ウォークの話があり、その話に横から首を突っ込み興味をもった。

今年は自身の還暦でもあり、記念に参加を決めた。その怖さも知らず即決であった。

もともと歩くことに対しては抵抗はなかったので本当に軽い気持ちであった。

その一瞬が後で地獄を見るときも知らないで。

100Km 歩くことは練習でもなかったし、夜間に歩くことも初めてのことである。

当日スタートするまで不安で一杯だった。

そこでこれは自分への挑戦と位置づけ「これは自分の肉体と精神に対する闘いである」と考
え、闘いには武器が必要。肉体に対する武器は、人工皮膚・馬油・テープ・バンテリン軟
膏・などを揃え、精神に対する武器は家族・友人からの激励・励ましのメールや TEL を
依頼した。 そしていよいよ当日がやってきた。

素晴らしい秋晴れで闘いの勝利を予感させる天気である。

【第一区間】 行橋～中津 36 Km 《てくてく歩く》

てくてくとペースを守り歩く。30K で足裏に肉刺ができる。練習ではこれぐらいでは何
とも無かったのに。我慢して中津駅の第一 CP まで歩き そこで又人工皮膚を追加して貼る。
休憩 15 分ですぐに出発。

【第二区間】 中津～宇佐 26 Km 《もくもく歩く》

宇佐神宮を過ぎてから CP までの遠いこと。まだか、まだか、の思いでもくもくと歩く。

やっと到着しうどんをいただく。足のケアをしていると猛烈な寒さが襲ってきた。

防寒ジャンパーを着込み、タオルをマフラー代わりに首に巻き、軍手をつけて即出発。休
憩 20 分。寒い、寒い、寒い。吐く息が白い。

【第三区間】 宇佐～日出 25 Km 《ひいひい歩く》

問題の峠越え区間である。まず立石峠。ここは寒さ対策もあり比較的ペースを上げて登
頂。あつけないかと思っていたら、次は七曲り。杖をお借りして登りはじめる。(この杖が無
ければ登れない。(自分にぴったりの杖を探してくれたスタッフのおばちゃんに感謝)。

真っ暗な坂道をランプの明かりを頼りにひいひい言いながら歩く。

なんて意地悪なコース設定だろうと恨みながら登り、次の下りはつま先と膝が悲鳴をあげ
るのを我慢して歩くと又峠だ。赤松峠である。ここが長い長い上りと長い長いくだりに又
悲鳴がでる。いつまで続くかこの坂。霧も出てきて前が見づらい。

ようやく CP に到着した。休憩 15 分で出発。足が重い。肩が痛い。腰が痛い。

永く休憩したら次の歩き始めが歩けない。スープだけをいただく。空腹は感じない。

【第四区間】 日出～別府 14 Km 《とぼとぼ歩く》

もう最後の区間だ。楽しく歩こうと思っていたが、ペースが上がらない。いつまでたっても行き着かない。どうなっているの。 体の各所が痛い、痛い。信号待ちが辛い。一歩歩けば一歩ゴールは近づくと独り言を言いながら、「地獄の別府湾岸道路」とはよく言ったものだとはへんなところに感心。足裏の痛いのは友達、ふくらはぎの痛いのは友達、膝が痛いのは友達、腰が痛いのも友達、肩が痛いのも友達と考えてとぼとぼと歩く。そうするとその友達は交互に挨拶にやってくるようになった。

ようやくゴールのゲートが見えてきた。先着者や応援の人達の拍手が嬉しい。スタート前は涙 涙のゴールかなと思っていたが、不思議と出なかった。完歩証をもらう時にうるっときた。(あまりのつらさで涙を忘れた)

タイトルの『もう歩かなくていいんだ。』はこのこと。『もう歩けない』

これで闘いは終わり、準備した武器はその効果を多いに発揮した。

話に聞いていたゴール後のビールの美味しいこと。言葉にできないほど。足の痛さを忘れさせてくれる。

今回 初参加であったが不思議とリタイヤのことは思わなかった。又 コースに対する主催者およびスタッフのおかげで、なんの不都合も出ずに安心してウォークできたのも運営していただく方々の大変な努力があった事です。又 感謝 感謝。

来年は20時間をきりたい。

ゴールしたときは絶対に1回だけの出場と思ったのに。

2011年10月21日 記 大田

記録追記

10/8 参加者数：3927人	完歩者数：2789人
大田記録：20時間34分10秒	順位：909位
平均時速：4.9Km/H	